

actmore

## アクトモア シュシュ

自走式／自走式・低床タイプ／介助式  
(C1600 シリーズ／C2600 シリーズ)

## アクトモア ヴィーボ

自走式／自走式・低床タイプ／介助式  
(V1500 シリーズ)



## 取扱説明書

● 目次 ●		
「使用前の 前」	安全に関する注意	2
	1. 製品の特長	7
	2. 各部の名称	7
「使用 方」	3. 適合・調整	8
	4. 操作方法および使用方法	11
	5. 駐車ブレーキの使用方法	13
	6. 介助用制動ブレーキの使用方法	13
	7. アームサポート（肘置き）の 跳ね上げかた	14
「お手 入れ」	8. フットレグサポートの スイングアウト・着脱	15
	9. 転倒防止金具の取り付け方	15
	10. エレベーターフットサポート （オプション）の着脱	17
	11. お手入れの方法	17
「仕様」	12. 保管についてのご願い	17
	13. 車いすの保守・点検	17
	14. 車いすの主な乗りかた	18
	15. 製品について	19
	16. 仕様	20

このたびは本製品をご利用いただき、まことにありがとうございます。

この「取扱説明書」には、本製品を安全にお使いいただくための注意事項や使用方法などを記載しています。

- ご使用になる前に必ずお読みいただき、正しく安全な取扱い方法をご理解してください。
- ご使用の際には本書を必ず携帯していただき、必要なときにいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。
- 本製品は、改良などにより本書の内容と一部異なる場合もあります。
- ご不明な点がございましたら、当社までお問い合わせください。

株式会社フロンティア





# 安全に関するご注意

※ご使用になる前に必ずお読みください。

安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

[表示マークの説明]

※正しい取扱いに関する必要事項を表示(シンボルマーク)で表しています。

 <b>警告</b>	取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。
 <b>注意</b>	取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。
 <b>禁止</b>	してはいけないことを示しています。
 <b>必ず守る</b>	必ずしなければならないことを示しています。



## 警告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

### ●エスカレーターでは使用しないでください。

介助者がいる場合でも、転倒などにより重大な事故のおそれがあります。



### ●取り扱いが理解出来ないと思われる方が使用する際には、十分注意してください。

取扱説明書に書かれた内容が理解できないと思われる方が使用する場合には、保護者、介助者などが必ず取扱説明書に従った使用を確保し、本人による製品の誤作動、その他誤った使用方法による事故を未然に防いでください。

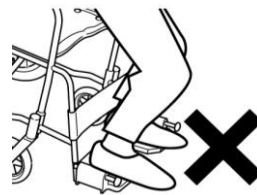
### ●車いすの改造や分解はしないでください。

強度や耐久性が低下して危険です。また、事故になるおそれがありますので絶対に改造・分解しないでください。

故意にシートを切断する等の加工を絶対にしないでください。シートを破断したり、加工した状態でご使用されますとフレームが歪んだり、破断する原因となります。また、シート取付けネジが歪んだり、欠落すると事故の原因になります。

### ●車いすに乗り降りの際は、決してフットサポート(足置き)の上に足を乗せないでください。

絶対にフットサポート(足置き)の上に乗って車いすに乗り込んだり、降りられるときに立ち上がらないでください。車いすごと転倒し危険です。



### ●車いすを火気に近付けないでください。

シート部が燃えたり、熱くなりプラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど、危険です。

### ●ポケットには重いものを入れないでください。

過度の荷物はバランスを崩し危険です。また、グリップ(押し手)に荷物を吊り下げて使用したい場合は当社までご連絡ください。



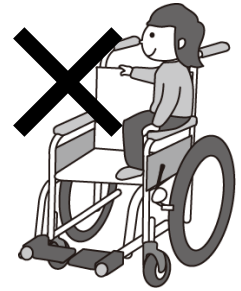
**禁止**



# 警告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

- シート（座面）以外の部分に腰掛けしないでください。
- 介助者は、絶対に車いすに乗って介助しないでください。
- 複数の人数で乗らないでください。  
この車いすは一人用です。二人以上で乗ると破損・事故の原因になります。
- 急な坂道(勾配4度以上)では使用しないでください。
- グリップ(押し手)に寄りかかったり、歩行補助として使用しないでください。
- 本説明書に記載されている調整箇所以外の調整を行わないでください。  
事故の原因となります。調整が必要な場合は当社までご連絡ください。

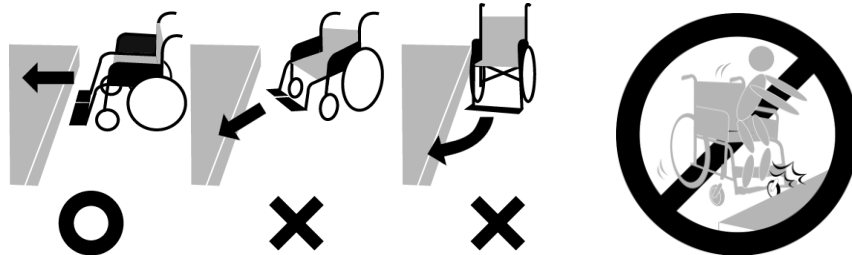


- 大きな段差を無理に乗り越えようとししないでください。
- 段差の前では一旦停止してティッピングレバーを利用して乗り越えてください。  
決して勢いをつけて乗り越えないでください。大変危険です。  
また、フレーム及びキャスト車輪等の損傷を受けます。



## 禁止

- 発進するときや段差を乗り越えるときには、キャストのタイヤが真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。  
斜めに進入したり、キャストタイヤが斜めになった状態で発進すると段差を乗り越えられなくなったり、キャストが破損して事故の原因となるおそれがあり大変危険です。



- 車いすでの走行中は、体を乗り出さないでください。  
車いすが不安定になり危険です。
- 車いすに座ったまま強い前傾姿勢をとらないでください。  
車いすに座ったまま前方の地面に置いてある物を拾うと、車いすごと転倒し大変危険です。



- 車いす以外の目的に使用しないでください。  
物品運搬・踏み台などに使用しないでください。  
車いすの上に立ち上がらないでください。



# 警告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

- 車いすを持ち上げる場合は駐車ブレーキをかけ、固定されているパイプをしっかり支えてください。

※バックサポート（背シート）、アームサポート（肘置き）、スイングレバー〔アクトモアシュシュ〕を持たないでください。持ち上げると車いすから外れるなど大変危険です。

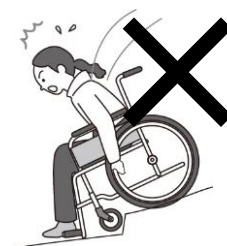
※使用者が乗ったまま持ち上げる場合は、3人以上で持ってしっかりと支えてください。使用者の体の一部を持たないでください。



- 道路通行の際は、必ず右側通行してください。また、歩道を通行してください。

- 体が前のめりにならないよう充分ご注意ください。

段差や凹凸などのある路面等を走行するときは、特にご注意ください。



- 踏み切りの横断やエレベーターの乗り降りの際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。

斜めの角度で進入するとレールの溝にはまって危険です。必ず介助者と一緒にわたってください。

- 坂道の上下りや段差のある場所では、必ず介助者に支えてもらって行ってください。

坂道を上るときは前向きで、下るときは後ろ向きで走行してください。

坂道を前向きで下ると乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードが出やすいなど、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。

[上り坂]



[下り坂]



- 傾斜地・坂道での走行は特にご注意ください。

・傾斜地や坂道では、車いすが予想外の方向に進む、スピードが出やすいなど大変危険です。

・車いすからずり落ちる、前へ倒れるなど、非常に不安定になり危険です。



- 車いすに乗り降りする際、一時停止する際は、必ず駐車ブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。



## 必ず守る



## 警告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。



必ず守る

- 走行中は、足を必ずフットサポート（足置き）の上に乗せてください。  
足を地面に付けたままで走行したり、フットサポートから外して走行すると、フットサポートと地面の間に足が巻き込まれてケガをするおそれがあり、危険です。  
（足でこいで操作する場合は例外です。）
- 車いすの機能と操作をよく理解し、慣れた状態で介助を行ってください。
- 部品等が破損したり損傷がある場合は、すぐに部品を交換してください。
- 次のような場所では走行を避けてください。
  - ・交通量の多い道路 ・砂利道 ・凹凸のある道
  - ・ぬかるみ ・雪道 ・凍結路 ・防止柵のない側溝や路肩付近など
  - ・崖 ・川土手 ・海岸防波堤上 ・その他危険な場所
- 次のような場合は走行を避けてください。
  - ・夜間 ・雨天 ・濃霧 ・強風 ・その他危険が予想される場合
 夜間は側溝や障害物などが発見しにくくなり危険です。  
雨天は路面がすべりやすくなり危険です。
- 次のような場所では厳重な注意が必要です。  
介助者が付き添い、使用者の体を支えるなど注意しながらご使用ください。
  - ・狭い道 ・踏み切り ・横断歩道 ・駅のホーム ・エレベーター
  - ・車いす対応の動く歩道 ・車いす対応の福祉車両
  - ・その他危険が予想される場所



## 注意

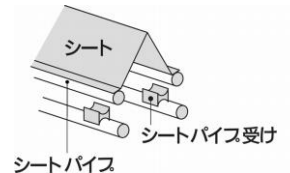
取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。



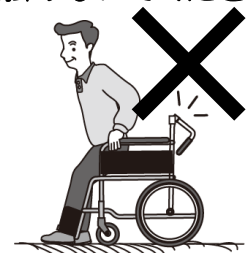
禁止

- シートパイプがシート受けに収まっている事を確認してご使用ください。

万が一、シート受けから浮いた状態でご使用されますと、フレームが歪んだり、故障の原因となり事故につながるおそれがあります。



- 車いすを投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。
- 背折れジョイント部、ブレーキなどの操作レバーに荷物などを掛けないでください。
- バックサポートを背折れしたまま使用しないでください。  
後方へ転倒したり、背折れ金具でケガをするなど大変危険です。







## 注意

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。



- タイヤをもって車輪を操作しないでください。**  
駐車ブレーキで指をはさむなど、大変危険です。
- 走行する際には片手で操作しないでください。**  
傘をさしながら、また片手に荷物を持ちながらの片手操作ではバランスを崩す原因にもなります。両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。



## 注意

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。



- ご使用前には各部を点検してください。**  
車いすは“動くもの”ですから、長時間のご使用等により劣化が生じます。ご使用前の点検を励行し、異常が見つかったら直ちにご使用を中止してください。
- 安定した姿勢で座ってください。**  
シート深くに座ってください。左右にかたよらずに座ってください。また、介助者は、使用者が安定した姿勢で座っていることを確認してください。
- 介助者は、使用者が車いすに安全に座れていることを確認してから操作してください。**  
使用者の体の一部または衣服がタイヤ、スポーク、キャスト及び地面、建物、通行者に触れたりはさまったりしないようご注意ください。
- 靴を履かずに足をフットサポート（足置き）に乗せてご使用いただく場合は十分ご注意ください。**  
壁や柱で足をケガしたり、足がフットサポートから落ちて骨折するなど、大変危険です。
- 車いすの乗り降りや移乗など車いすが不安定になりやすいときには、必ず2名以上の介助者が付き添ってください。**
- 最大体重 100kg を守ってご使用ください。**  
車いすに表示されている「使用者最大体重」は、積載物も含んだ重さです。



この取扱説明書は、イラストや写真が一部実車と異なる場合があります。

# 1.製品の特長

- 快適に座ることを考えた標準タイプの車いすです。
  - 体格に合わせて座幅を 38cm、40cm、42cm よりお選びいただけます。
  - 背シート、シート（座面）、アームサポート（肘置き）、フットサポートを体格に合わせて調整できます。またクッションを標準装備しているため快適にお使いいただけます。
- 【アクトモア シュシュ】
- 跳ね上げ式のアームサポート（肘置き）とスイングアウト式のフットレッグサポートで、移乗の際の動作をラクにします。
  - エレベーター式フットレッグサポート（オプション）を組み合わせる使用することができます。

## 2.各部名称

アクトモア シュシュ  
(C2600 シリーズ)

跳ね上げレバー

ハンドリム

ティッピングレバー

スイングレバー

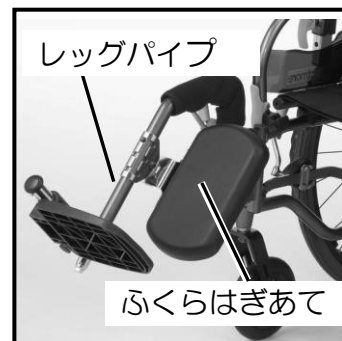
グリップ（押し手）

バックサポート（背シート）

アームサポート（肘置き）

クッション

<オプション>  
エレベーター式  
フットレッグサポート



アクトモア ヴィーボ  
(V1500 シリーズ)

介助用制動ブレーキ

背折れジョイント部

駐車ブレーキ

駆動輪  
(介助式は主輪)

キャスタ

上下レバー

シート（座面）

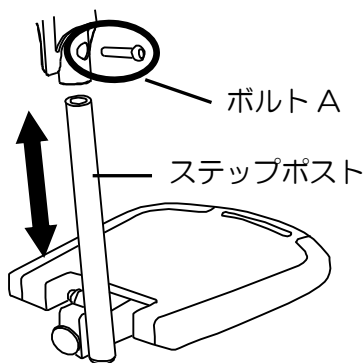
フットレッグサポート

フットサポート（足置き）

レッグサポート

### 3.適合・調整

#### ☆フットサポート（足置き）の高さ調整（ステップポストの取り外し・取り付け）



アクトモア シュシュ  
(C2600 シリーズ)

[アクトモア ヴィーボ (V1500 シリーズ) / シュシュ (C1600 シリーズ)]  
① 10mm のスパナと、4mm の六角棒レンチを使って、ステップ  
ポストを固定しているボルト A をゆるめて抜いてください。

[アクトモア シュシュ (C2600 シリーズ)]

① 4mm の六角棒レンチのみでボルト A をゆるめて抜いてください。

[共通]

② ステップポストを適当な高さに合わせた後、ボルト A を差し込み、  
完全に締めてください。



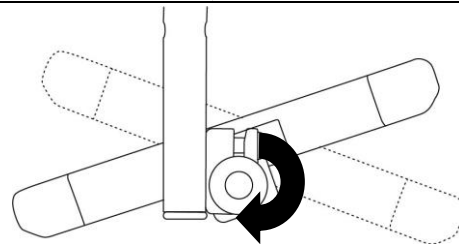
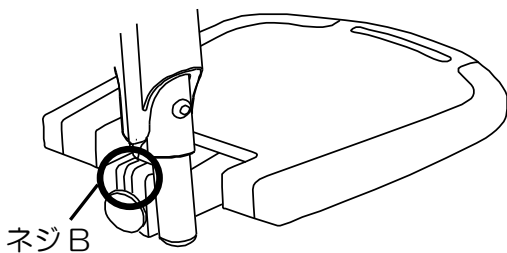
## 警告

●フットサポート（足置き）の高さは地面よ  
り室内では 3cm 以上、屋外では 5cm 以  
上でご使用ください。

低すぎると凸凹路面や障害物にフットサポート  
（足置き）があたり、転倒するおそれがあります。



#### ☆フットサポート（足置き）の角度調整 [アクトモア シュシュ (C1600 シリーズ / C2600 シリーズ)]

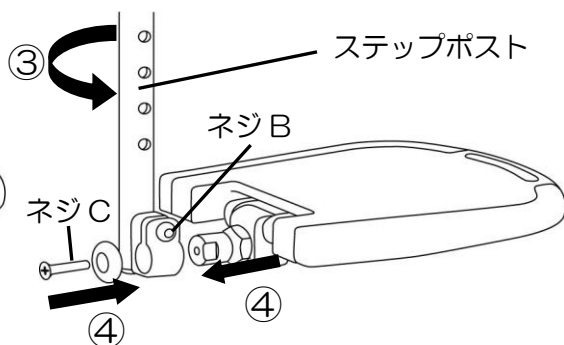
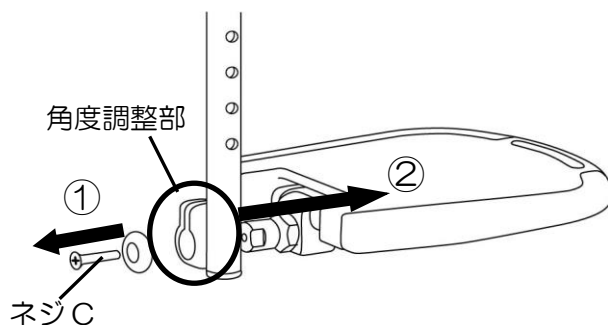


① フットサポート（足置き）のネジ B を  
4mm の六角棒レンチでゆるめて  
任意の角度に合せてください。

② 角度が決まったらネジ B を締めて、フット  
サポート（足置き）を固定してください。  
フットサポート（足置き）を手で押さえて、  
角度が変わらないか確認してください。

#### ☆フットサポート（足置き）の前後調整 [アクトモア シュシュ (C1600 シリーズ / C2600 シリーズ)]

フットサポート（足置き）の前後位置は、アクトモア シュシュの C1600 シリーズは前側、C2600 シリーズは後側が標準設定です。



① プラスドライバーを使って、ネジ C をゆる  
めて外してください。

② 角度調整部のネジ B を 4mm の六角棒レ  
ンチでゆるめ、ステップポストからフット  
サポート（足置き）を抜いてください。

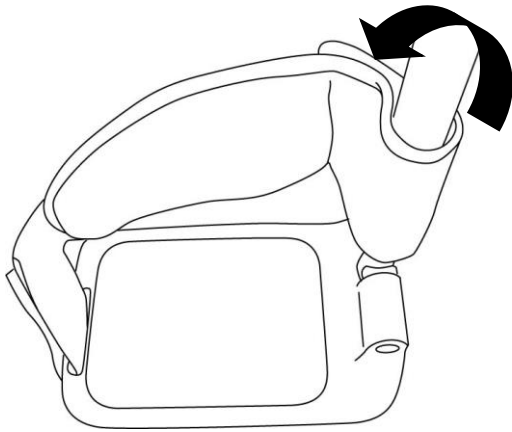
③ ステップポストを取り外し、前後逆にして、  
フレームに取り付けてください。

④ フットサポート（足置き）を差し込み、ネ  
ジ C を締めて固定してください。

⑤ 任意の角度で、フットサポート（足置き）  
を固定してください。（前項 フットサポ  
ート（足置き）の角度調整参照）



## ☆レッグサポートの張り調整



脚部に巻きつけてある部分の面ファスナーを外し、張り具合を調整します。フットレッグサポートに巻きつけて固定してください。  
 ※この際、面ファスナーを合わせ、必ずしっかりと固定してください。

## ☆バックサポート（背シート）の調整

この車いすのバックサポート（背シート）は使用者の方の体型に合わせて調整できます。一番ラクな姿勢が保持できるように調整してください。

[アクトモア ヴィーボ（V1500シリーズ）/シュシュ（C1600シリーズ）]

- ① バックサポート（背シート）の背クッションを取り外します。
- ② 調整ベルトの面ファスナーを外し、適当な長さに合わせます。（部位によって張り具合を調整してください。）
- ③ 背クッションを取り付けます。

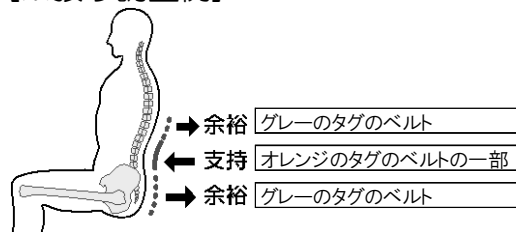
[アクトモア シュシュ（C2600シリーズ）]

バックサポート（背シート）の背クッションの後ろをめくり、調整ベルトの面ファスナーを外し適当な長さに合わせてください。

※面ファスナーのタグの色をめやすに調整できます。



[※張り調整例]



## ⚠ 注意

使用者が車いすに乗っている状態では、全ての面ファスナーを一度に外さないでください。  
 転倒するおそれがあり、大変危険です。

## ⚠ 注意

- バックサポート（背シート）を調整する際、強く張りすぎないようにご注意ください。

※バックサポート（背シート）を強く張りすぎると背パイプが中央に寄ってしまい、背もたれ幅が狭くなってしまいます。また、フレームの変形の原因にもなります。

- 背クッションはポケットが付いている方が後ろ側です。表裏・前後の向きにご注意ください。

- 面ファスナーに糸くず・汚れなどがついたときは取り除いて下さい。手入れをしないと接着力が弱まり、事故の原因となります。



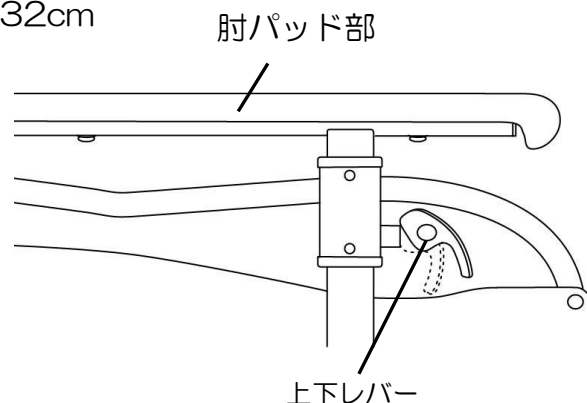
## ☆アームサポート（肘置き）高さ調整

肘掛けの高さを6段階（22～32cm）で調整できます。

※シュシュ 自走式・中床タイプのみ 24～32cm

- ① 駐車ブレーキをかけます。
- ② 上下レバーを上を持ち上げます。
- ③ 上下レバーを上を持ち上げたまま、肘パッド部を持って上下させます。
- ④ 高さが決まったら上下レバーを下に下げます。

※上下レバーのピンがしっかりと収まっていることを確認してください。

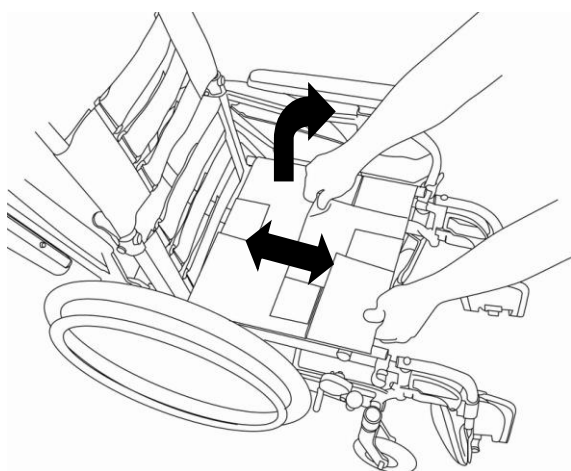


## 警告

- 調整する際は、必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 調整後はアームサポート（肘置き）がしっかりと固定されたことをご確認ください。

## ☆シート（座面）の奥行き調整

シート（座面）の奥行きを37～40cmで調整できます。

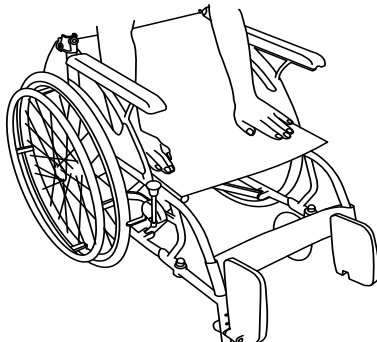
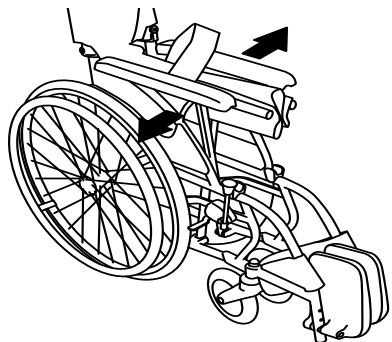


- ① 座クッションを取り外します。
- ② シート（座面）にある面ファスナーを外し、適当な奥行きに合わせます。
- ③ 座クッションを設置します。  
（座クッションは奥行きサイズに合ったものを使用してください。）

## 4.操作方法および使用方法

### 1.車いすの開きかた

#### ①左右に拡げます。



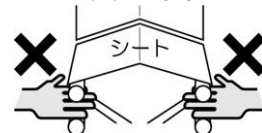
駐車ブレーキをかけます。車いすの前方または後方に立ち、左右のアームサポート（肘当て）を持って両側に軽く拡げます。

片方のフレームを持ち上げて車輪を少し地面から浮かせ、シートパイプ部分を上から手で押し下げます。

### 注意

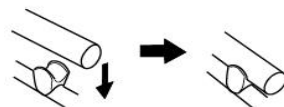
- シートパイプの横や下に手や指を置かないでください。

挟まってケガをするおそれがあります。

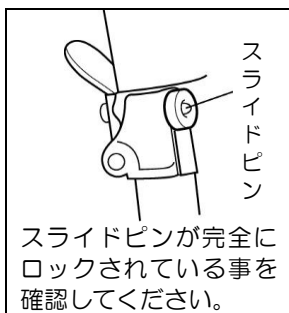
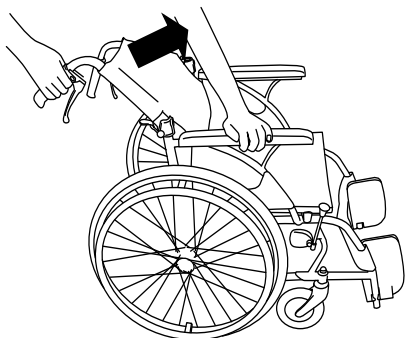


- バックサポート（背シート）が張りすぎていることを確認し、シートパイプをシート受けに確実に入れてください。

フレームが変形して、事故の原因となります。



#### ②背もたれを起こします。



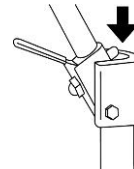
車いすの押手部分を持ち、上方（矢印の方向）へ引き起こすように持ち上げてください。

※このとき、片側の手で車いすが動かないように支えています。

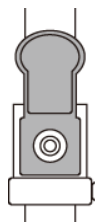
### 注意

- 矢印の箇所に手や指を置かないでください。

挟まってケガをするおそれがあります。

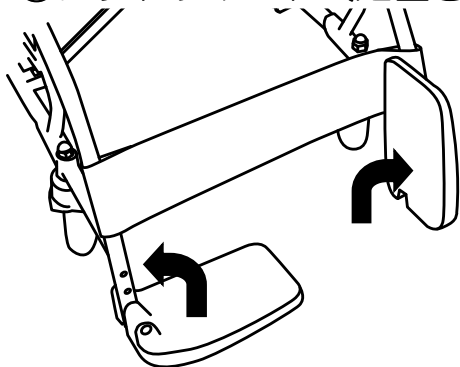


- 背折れレバーが図の向きになっていることを確認してください。



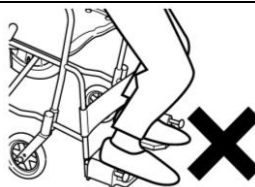
## 2.車いすの折りたたみかた

### ①フットサポート（足置き）を跳ね上げます。



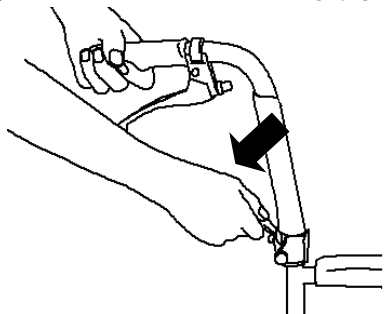
駐車ブレーキをかけ、フットサポート（足置き）を閉じるように上方へ（矢印の方向へ）跳ね上げます。  
※フットサポート（足置き）を内側にたおした状態のままだと、折りたたみが出来ません。

### 警告

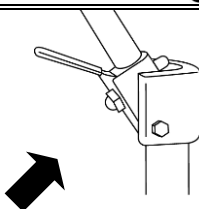


車いすから降りる際、絶対にフットサポート（足置き）の上に乗らないで下さい。  
車いすごと転倒し、大変危険です。

### ②バックサポートを折りたたみます。



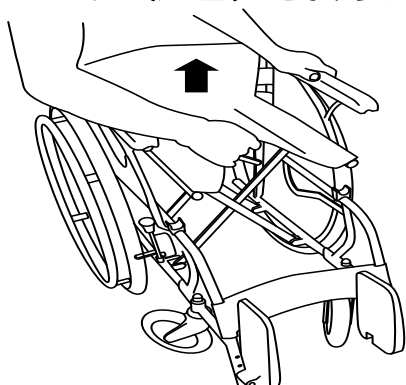
### 注意



矢印の箇所に手や指を置かないでください。  
挟まってケガをするおそれがあります。

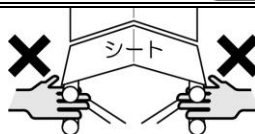
グリップ（押し手）を握り、一方の手で背折れジョイント部のレバーを後方へ引きながらグリップ（押し手）を倒します。また、反対側も同様に倒してください。

### ③シート（座面）を折りたたみます。

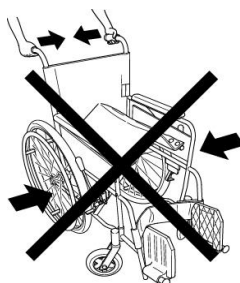


シート（座面）の前方・後方の中央部を同時に持ち上げます。

### 注意



シートパイプの横や下に手や指を置かないでください。  
挟まってケガをするおそれがあります。

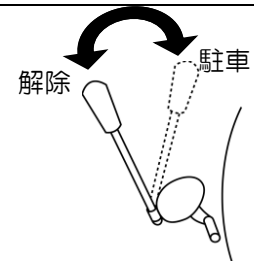


折りたたむ際に、グリップ（押し手）を持って左右から押し縮めないで下さい。  
フレームの破損の原因となります。

## 5. 駐車ブレーキの使用法

### 1. 駐車ブレーキの使いかた

ブレーキレバーを後方に引くとロックし、レバーを前方に倒すとロックが解除されます。  
※車いすに乗り降りや一時停止する際は、必ず駐車ブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。



### 2. 駐車ブレーキの延長

駐車ブレーキを長くすることで、軽い力でブレーキをかけることができます。

[アクトモア ヴィーボ (V1500 シリーズ) / シュシュ (C1600 シリーズ)]

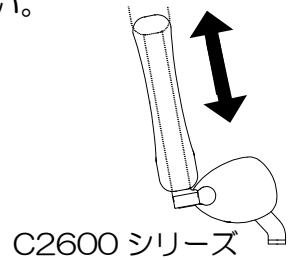
オプションまたは別売りの延長ブレーキを取り付けて使用してください。

※ヴィーボ (V1500 シリーズ) : 別売

シュシュ (C1600 シリーズ) : オプション (1 本)

[アクトモア シュシュ (C2600 シリーズ)]

両側の駐車ブレーキは伸縮式ブレーキなので、使用したいときにレバーを上方に引き上げると延長できます。不要なときは下に押し下げて元の位置に戻してください。

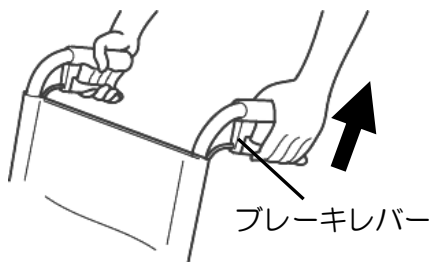


## 注意

- 車いすに乗り降りする際、一時停止する際は、必ず駐車ブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。
- 傾斜地や平坦でないところでは駐車しないでください。  
傾斜地やすべりやすい床面では駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があります、大変危険です。
- 駐車ブレーキのレバーは作動方向以外に力を加えないでください。  
また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損するおそれがあります。
- 駐車ブレーキは必ず手で操作してください。  
足などで操作するとブレーキが破損するおそれがあります。



## 6. 介助用制動ブレーキの使いかた



ブレーキレバーを握ると制動ブレーキがかかり、離すと解除します。

## 警告

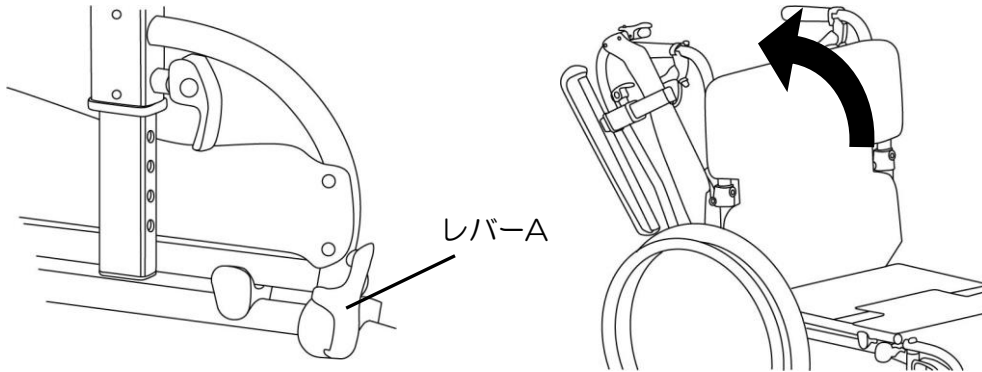
- ブレーキの効き目が強すぎたり弱すぎるときは、当社にお問い合わせください。
- ブレーキレバーは介助者の方が必ず両方同時に掛けてください。
- 坂道を下るときは後ろ向きで走行してください。  
坂道を前向きで下ると乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードが出やすいなど、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。



## 7.アームサポート（肘置き）の跳ね上げかた 【アクトモア シュシュ】

アームサポート（肘置き）を跳ね上げるとベッドなどへ移乗しやすくなります。

[跳ね上げる]



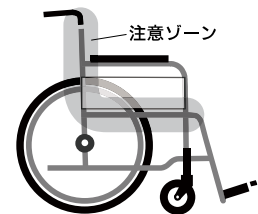
- ① 駐車ブレーキを掛けた後、上図のレバー-Aをつまみ、ロックを解除します。 ② アームサポート（肘置き）を矢印の方向に跳ね上げます。

[元に戻す]

- ① アームサポート（肘置き）を降ろし、一番下まで押し下げます。 ② 確実にロックされていることを確認してください。

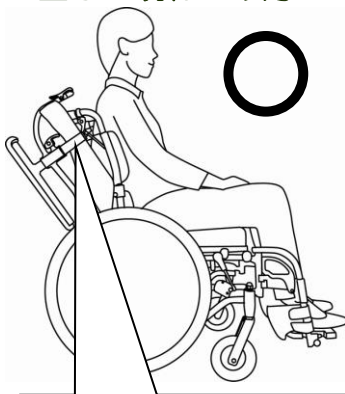
### ⚠ 注意

- アームサポート（肘置き）を跳ね上げたままの状態で使用しないでください。転倒など、思わぬ事故の原因となります。
- アームサポート（肘置き）に腕を載せたまま、アームサポート（肘置き）を跳ね上げないでください。
- アームサポート（肘置き）を跳ね上げたり、戻す際には、フレームとの隙間や車輪との隙間、ブレーキレバーとの隙間、跳ね上げ金具等で手や衣服を挟まないようご注意ください。
  - ・フレームとの隙間
  - ・介助用制動ブレーキレバーとの隙間
  - ・車輪との隙間
  - ・駐車ブレーキとの隙間
  - ・跳ね上げ金具
- アームサポート（肘置き）の跳ね上げは、必ず最後まで後ろに跳ね上げてください。
- ベッドなどに移乗する際は、跳ね上げたアームサポート（肘置き）に体が接触したり衣服がひっかからないようご注意ください。

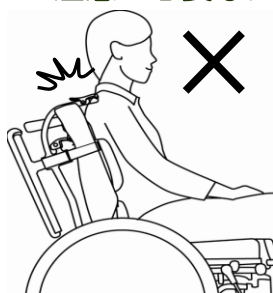


～正しい跳ね上げ方～

～注意が必要なアームサポートの跳ね上げ使用例～



必ず最後まで  
後ろへ跳ね上げる



アームサポートを最後まで跳ね上げてください。肩や腕に接触しケガをするおそれがあります。



アームサポートを途中でとめず最後まで跳ね上げてください。移乗時など、腰や臀部が接触しケガをするおそれがあります。



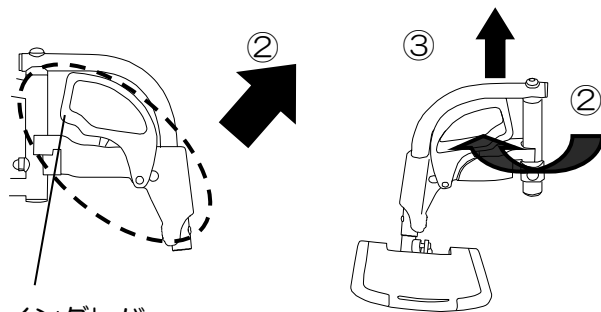
アームサポートを閉じるとき、脚や衣服を挟み込まないよう注意してください。接触しケガをするおそれがあります。



## 8. フットレッグサポートのスイングアウト・着脱

【アクトモア シュシュ】

[スイングアウト・取り外す]

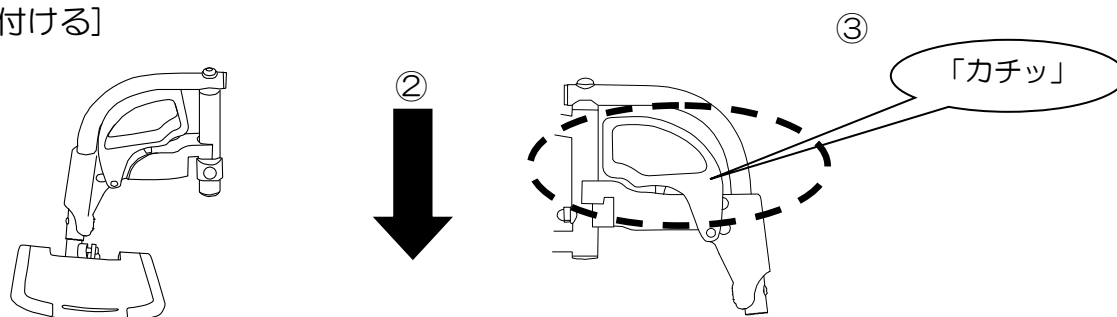


スイングレバー



- ① 駐車ブレーキをかけます。
- ② スイングレバーを引きながら、フットレッグサポートを外側に回します。
- ③ 外側に回した状態でレッグサポートを上へ引き抜きます。

[取り付ける]

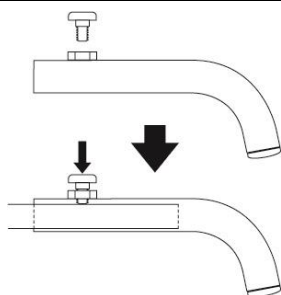


- ① 駐車ブレーキをかけます。
- ② フットレッグサポートを差し込み、内側に回します。
- ③ このとき、スイングレバーが「カチッ」という音がし固定されていることを確認してください。(スイングレバーが浮いていない状態)

### 注意

- スイングアウトや脱着の操作をする際には、フットレッグサポートや金具等で手や衣服をはさまないようにご注意ください。
- スイングアウトや脱着の操作をする際には必ず駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。  
急に車いすが動き事故の原因になりかねません。

## 9. 転倒防止バー（オプション）の取り付けかた

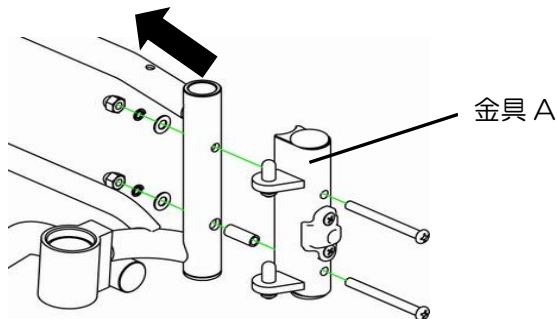


フレーム奥まで転倒防止金具を差し込み、ノブネジでしっかり固定します。

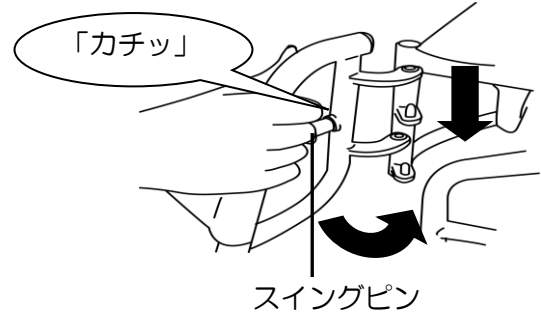
# 10.エレベーターフットレッグサポート（オプション）の着脱 【アクトモア シュシュ】

## ＜エレベーターフットレッグサポートの取り付けかた＞

① フットレッグサポートを取り外し、金具 A を取り付けます。



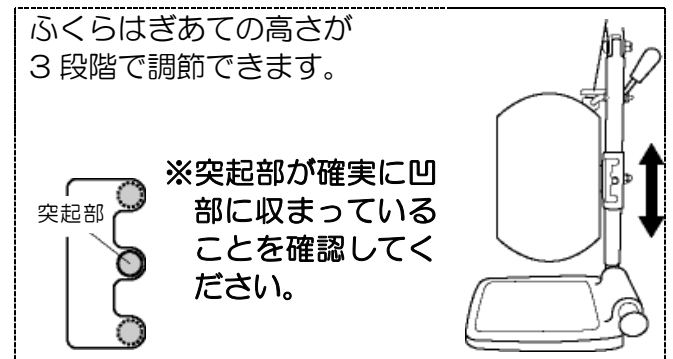
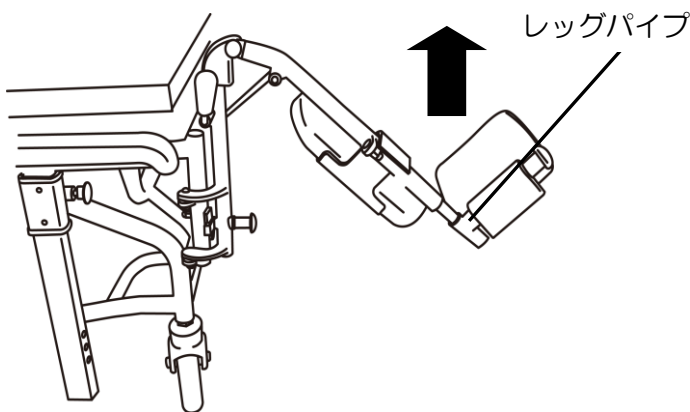
② 図のように差し込みフットレッグサポートを内側に回します。スイングピンが「カチッ」という音がして固定されます。外す時は逆の手順で行ってください。



## ＜エレベーターする場合＞

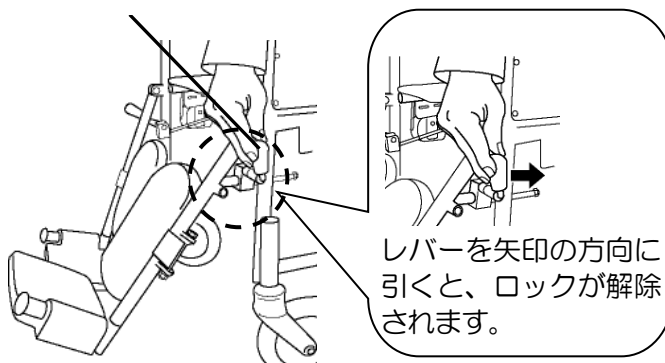
＜角度をつける（上方向に動かす）場合＞

レッグパイプを矢印の方向に持ち上げます。



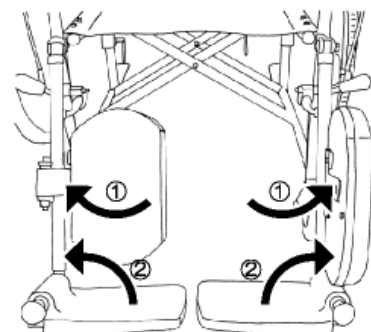
＜角度を戻す（下方向に動かす）場合＞

ロック解除レバー



片方の手でフットレッグサポートを支えながら、もう一方の手でロック解除レバーを背もたれ側に倒します。

＜レッグサポートをたたむとき＞  
（ふくらはぎあて）



レッグサポート（ふくらはぎあて）を左右に、次にフットサポート（足置き）を上跳到ね上げます。

## 11.お手入れの方法

### ★フレーム、車輪

フレームなどの金属部は、乾いた布でよく汚れを落としてください。スポークの通常のお手入れは、水を用いずに汚れを落とす程度で充分です。凹凸のある部分の汚れ、頑固にこびり着いた汚れは、市販の中性洗剤を用いてください。

### ★クッション、シート

シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。

#### <汚れがひどいとき>

- 汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後、水で濡らした布で洗剤を拭き取ってください。
- しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取り除いてください。
- 洗う場合は、ぬるま湯で手洗いしてください。洗濯機、乾燥機の使用はお避けください。
- クッション表面に面ファスナー（オス）が接触しないようにしてください。（クッション生地のはつれ、けばだちの原因となります。）

## ⚠ 注意

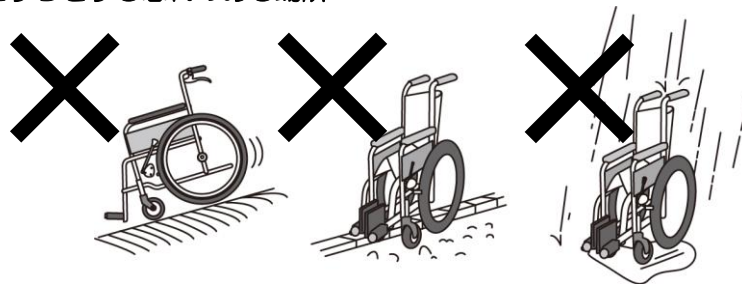
- 熱湯やオゾンで洗浄しないでください。
- シンナーやベンジンなどの揮発性のものは使用しないでください。
- たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。

## 12.保管についてのお願い

車いすは、お手入れ後、安全な場所に保管してください。

## ⚠ 注意

- 下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。
  - ・車道に近いところ
  - ・路面に段差や凸凹のあるところ
  - ・海沿いの屋外(潮風の当たる場所)
  - ・非常口、消火器、消火栓の前
  - ・ストーブなど火気を使用し高温になる場所
  - ・子供がいたずらをする恐れのある場所
  - ・人通りのあるところ
  - ・湿気の多いところ
  - ・雨、風のアたる場所
  - ・直射日光の当たる場所（車内も含む）
  - ・坂道
  - ・暑い日や寒い日の戸外
  - ・ほこりの多い場所



## 13.車いすの保守・点検

★キャスト、後輪、ブレーキなどのゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。

★ブレーキの利き具合が悪いときは、当社までお問い合わせください。

## 14.車いすの主な乗りかた

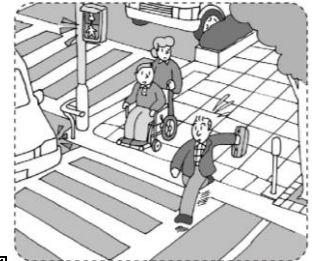
### ⚠ 警告

- 下り坂は加速がつき危険です。いつでもブレーキがかけられるよう慎重に。
- いきなり公道に出るのは危険です。屋内や庭など安全な場所で練習しましょう。
- 車道はできるだけ通らず、歩道や十分な幅のある路側帯を通りましょう。

車いすは歩行者として取り扱われます。

歩行者としての交通ルールを守りましょう。

- 「自転車及び歩行者専用」、「歩行者専用」のマークのある歩行者専用道路も通ることができます。
- 信号機のある場所では、「青」が点滅中に横断するのは危険です。「青」信号を待ちましょう。



★焦らずゆとりを持った横断、走行を心掛けましょう。

### ⚠ 注意

- 車いすは乗り物ですから、定期点検が必要です。  
長期の使用によって劣化が生じます。異常が発生した場合は、直ちに使用を中止してください。

★転倒防止に十分配慮してください。

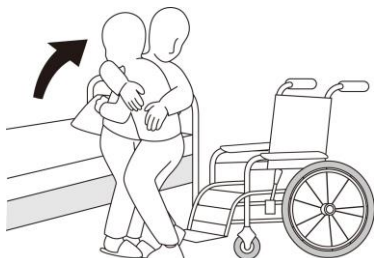
転倒防止バー(オプション)をご利用いただく、車いすの後方を支えるなどの方法があります。

### ★移乗

車いすに乗る方を介助者がベッドなどから移す方法です。双方にとって安全で負担の少ないことが重要です。

- ① 駐車ブレーキを両輪に掛けてください。
- ② フットサポートを両方とも上げます。  
アクトモア シュシュの場合、乗り移る側のアームサポートを跳ね上げるなど、利用者の身体状況によって、移乗方法は異なります。正しい移乗方法を行ってください。また、フット・レッグサポートは取り外すかスイングアウトをすることで、利用者や介助者の体に干渉せず、移乗先に近づけることができます。

【立位移乗の場合】



- ③ 介助者が利用者の身体状況に合わせて、体を支えながら立ち上がらせませす。



- ④ 移乗先の車いすへお尻を向けます。



- ⑤ 車いすのシート(座面)の奥まで座れるように、ゆっくりと腰を下ろしてもらいます。フット・レッグサポートを戻し、フットサポート(足置き)を下ろして両足をのせます。



## ★外出

車いすの安全な使い方は、“ゆっくり”“確実に”が基本です。

### [坂道]



<上り坂>

介助者は身体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します。



<下り坂>

坂を下るときはブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。

### [段差のある場所]



<上がるとき>

ティッピングレバーを踏んで前輪を上げて進み、続いて駆動輪（主輪）を押し上げます。

<下るとき>

後ろ向きでまず駆動輪（主輪）をおろし、ティッピングレバーを踏んでキャストを上げたまま後進し、ゆっくりと下ろします。

※階段では車いす全体を持ち上げてください。

### [溝越え]

※予め溝の大きさを確認し安全に渡れる場合のみ実施してください。



①ティッピングレバーを踏んで押手を押し下げ、キャストを上げます。

※この時、必ず声をかけてから行ないます。



②キャストを上げたまま前に進み、溝を越えた向こう側にキャストをゆっくり下ろします。



③次に駆動輪（主輪）を持ち上げて前に進み、溝を完全に越えたところでゆっくりと後輪駆動輪（主輪）を下ろします。

## 15.製品について

### ■製品の使用目的

本製品は、自走用または介助用車いすです。  
これに搭乗しての移動と、休息を目的としています。  
本製品は一人乗り用です。

### ■自走用をご使用の場合

この車いすは、自身でハンドリムを操作して走行する車いすです。この車いすは、特別な身体保持具、バックサポート（背）の角度調整、座位の姿勢変換（昇降、旋回等）等の機構がない標準形の自走用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこの標準形が適している場合でも、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準形が使用に適さなくなることがあります。

### ■介助用をご使用の場合

この車いすは、介助者が操作する車いすです。この車いすは、バックサポート（背）の角度調整、座位の姿勢変換（昇降、旋回等）等の機構がない標準形の介助用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこの標準形が適している場合でも、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準形が使用に適さなくなることがあります。

# 16.仕様 ※下記寸法はオリジナルクッションを含まない寸法です。

製品名		アクトモア シュシュ (C2600 シリーズ)				
仕様	自走式	自走式・ 中床タイプ	自走式・ 低床タイプ	介助式	介助式・ 中床タイプ	介助式・ 低床タイプ
品番	C2622	C2622	C2620	C2616	C2616	C2616
座幅	38/40/42cm					
座奥行	37~40cm (無段階調整)					
本体外形寸法	全幅	58/60/62cm		56/58/60cm		
	全長	96cm		93cm	94cm	
	全高	90cm	86cm	82cm	90cm	86cm
前座高	44cm	40cm	36cm	44cm	40cm	36cm
アームサポート (肘置き)	跳ね上げ式、上下調整 22~32cm (2cm 刻み 6 段階調節) ※自走式・低床タイプのみ：24~32cm (2cm 刻み 5 段階調節)					
フットサポート (足置き)	スイングアウト仕様、自走式/介助式：34~40cm (2cm 刻み 4 段階)、 中床タイプ 34~36cm (2cm 刻み 2 段階調節) 低床タイプ 26~32cm (2cm 刻み 4 段階調節)					
折りたたみ時全幅	33cm			31cm		
重量	約 16.4kg		約 15.9kg	約 15.2kg		
主輪径 (ノンパンクタイヤ)	22 インチ		20 インチ	16 インチ		
キャスト径 (ソリッドタイヤ)	6 インチ					
使用者最大体重	100kg (積載物含む)					
材質	フレーム：アルミ、シート：ポリエステル					
標準仕様	オリジナルクッション					
オプション	エレベーターフットレグサポート、転倒防止バー					

製品名		アクトモア シュシュ (C1600 シリーズ)			アクトモア ヴィーボ (V1500 シリーズ)		
仕様	自走式	自走式・ 低床タイプ	介助式	自走式	自走式・ 低床タイプ	介助式	
品番	C1622	C1620	C1616	V1522	V1520	V1516	
座幅	38/40/42cm						
座奥行	37~40cm (無段階調整)						
本体外形寸法	全幅	59/61/63cm		56/58/ 60cm	59/61/63cm (※58/60/62cm)		
	全長	102cm	99cm	102cm	97cm	95cm	
	全高	90cm	84cm	90cm	90cm	84cm	
前座高	44cm	36cm	44cm	44cm	36cm	44cm	
アームサポート (肘置き)	跳ね上げ式、上下調整 22~32cm (2cm 刻み 6 段階調節)			固定式、上下調整 22~32cm (2cm 刻み 6 段階調節)			
フットサポート (足置き)	スイングアウト仕様、自走式/介助式： 34~40cm (2cm 刻み 4 段階調節)、 自走式・低床タイプ：30・32cm			固定式、自走式/介助式：34~40cm (2cm 刻み 4 段階調節)、 自走式・低床タイプ：30・32cm			
折りたたみ時全幅	34cm		31cm	34cm (※33cm)		31cm	
重量	約 16.4kg	約 15.9kg	約 14.8kg	約 14.5kg (約 14.8kg)	約 14.1kg (約 14.3kg)	約 13.3kg (約 13.2kg)	
主輪径 (ノンパンクタイヤ)	22 インチ	20 インチ	16 インチ	22 インチ	20 インチ	16 インチ	
キャスト径 (ソリッドタイヤ)	6 インチ						
使用者最大体重	100kg (積載物含む)						
材質	フレーム：アルミ、シート：ポリエステル						
標準仕様	オリジナルクッション/延長プレーキ (10cm) 1本			オリジナルクッション			
オプション	転倒防止バー						

※仕様によって数値が異なります。

■この車いすは JIS T 9201:2006 に定める静的安定性試験において、10.1.2 a) の方法を用いて合格しております。

■製品の仕様は予告なしに変更することがあります。あらかじめご了承ください。

## 株式会社フロンティア

フクシのこトハ

フリーコール **0120-294-518**

千葉本社 福祉本部 〒261-0002  
千葉県千葉市美浜区新港42-4  
TEL.043-301-8338

●アフターサービスのお問い合わせ

取扱店